

熊本高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	数値設計工学	
科目基礎情報							
科目番号	0133		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書：「理論と実務がつながる 実践有限要素法シミュレーション」泉聡志・酒井信介共著、森北出版／参考書：「例題で学ぶ Marc有限要素法解析入門」坂根政男編、丸善出版、等						
担当教員	田中 裕一						
到達目標							
1. 有限要素法の解析原理をフローチャートで書ける。 2. 連続体力学の基礎式をマトリクス表示で理解できる。 3. 近似・補間・離散化の概念を理解できる。 4. 変位関数・形状関数の概要を理解できる。 5. 入力データと境界条件、要素分割と精度、可視化と定量的評価の重要性を理解できる。 6. 一連の解析を実践し、結果を検証して、簡単な評価をできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
有限要素法の解析原理	有限要素法の解析原理をフローチャートや文章で説明できる		有限要素法の解析原理をフローチャートで書ける		有限要素法の解析原理を理解できない		
連続体力学	連続体力学の基礎式をマトリクス表示できる		連続体力学の基礎式をマトリクス表示で理解できる		連続体力学の基礎式を理解できない		
近似・補間・離散化	近似・補間・離散化の概念を解説できる		近似・補間・離散化の概念を理解できる		近似・補間・離散化の概念を理解できない		
変位関数・形状関数	変位関数・形状関数の概要を解説できる		変位関数・形状関数の概要を理解できる		変位関数・形状関数の概要を理解できない		
シミュレーションの実践	入力データと境界条件、要素分割と精度、可視化と定量的評価の重要性を解説できる		入力データと境界条件、要素分割と精度、可視化と定量的評価の重要性を理解できる		入力データと境界条件、要素分割と精度、可視化と定量的評価の重要性を理解できない		
解析ソフトウェアを使った演習	時間をかければ、様々な解析ソフトウェアを使って、結果を検証できる		一連の解析を実践し、結果を検証して、簡単な評価ができる		一連の解析を実践し、結果を検証して、簡単な評価ができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 6-1 JABEE (d2-c) JABEE (e)							
教育方法等							
概要	近年、有限要素法シミュレーションはCAE（Computer Aided Engineering）のなかでもっとも重要なツールのの一つとなりました。これに従い、実務で有限要素法を使う設計者の数は著しく増大しています。同時に、多くの洗練された汎用コードの発展により、ユーザーは、必ずしも中身の原理的なことに熟知していなくても解析を実践できるようになり、短時間で多くの結果を求められるようになってきています。しかし、実際の設計の現場では、苦労しているという話をよく耳にします。有限要素法を使って解析する際には、適切なモデリングや境界条件の設定、計算結果の評価などの高度な実践知識（ノウハウ）が必要とされます。本科目では、有限要素法を使うにあたっての最低限必要な知識を習得し、実際に有限要素法シミュレーションを行ってもらいます。						
授業の進め方・方法	授業は、デジタル設計演習室で行います。材料力学、マトリクス法、連続体力学、数値解析などをからめながら、有限要素法の原理について説明します。その後、実際にシミュレーションを行う際の実践的知識について説明します。研究室で使える端末や個人で所有する端末に無償の汎用コードをインストールすることを推奨します。 MSC Software Student Editions https://www.mscsoftware.com/ja/student-editions ANSYS Student https://www.ansys.com/ja-jp/academic/free-student-products						
注意点	評価に、「出席」および「態度」を加えます。教科書を持参し、自主的に取り組むことが求められます。スマホを使って良い時は指示します。それ以外は使わないでください。また、「課題」および「試験」の評価を加えます。課題の締切は必ず守ってください。遅れて提出された課題の評価は、締切を守って提出された課題の評価と比べて低くなります。 この科目は、社団法人 日本機械学会に、計算力学技術者（2級）（固体力学分野の有限要素法解析技術者）の公認 CAE技能講習会として認定されています。公認CAE技能講習会の修了者は、申請することにより計算力学技術者（初級）の認定を受けることができます。 計算力学技術者（CAE技術者）の資格認定 http://www.jsme.or.jp/cee/cmnnintei.htm						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 解析環境構築				
		2週	有限要素法の基礎知識 有限要素法の解析原理		材料力学と有限要素法の関係を理解できる。		
		3週	有限要素法の解析原理（トラス要素）		仮想仕事の原理を理解できる。 変位関数・形状関数の概要を理解できる。 剛性マトリクスを理解できる。 有限要素法の解析原理をフローチャートで説明できる。		
		4週	有限要素法の解析原理（ソリッド要素）		三角形一次要素（定ひずみ要素）、アイソパラメトリック四辺形一次要素及び二次要素を理解できる。		
		5週	有限要素法の実践的知識		形状のモデリング、要素の選定、メッシュの作成、境界条件の設定、解析物理モデルの設定を理解できる。		
		6週	有限要素法の実践的知識		結果の検証、結果の分析と解釈、強度評価を理解できる。		
		7週	有限要素法の演習問題		有限要素法のレポートのまとめ方（例題）を理解できる。		
		8週	Marc Mentatによる平面応力弾性解析例題		中央切欠き円孔を有する平板の弾性応力解析－平面応力弾性解析を理解できる。		

	2ndQ	9週	有限要素法の演習問題	有限要素法のレポートのまとめ方（初級）を理解できる。
		10週	有限要素法の演習問題	有限要素法のレポートのまとめ方（初級）を理解できる。
		11週	有限要素法の演習問題	有限要素法のレポートのまとめ方（初級）を理解できる。
		12週	有限要素法の演習問題	有限要素法のレポートのまとめ方（初級）を理解できる。
		13週	有限要素法の演習問題	有限要素法のレポートのまとめ方を理解できる。
		14週	有限要素法の演習課題提出	有限要素法のレポートを提出できる。
		15週	定期試験	
		16週	定期試験答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	出席	態度	課題	試験			合計
総合評価割合	10	10	40	40	0	0	100
基礎的能力	10	10	0	0	0	0	20
専門的能力	0	0	40	40	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0